

幼児生活団 通信グループ



通信グループは、全国各地及び海外在住のお友だちと共に生活を励み合うグループです。

お送りする内容は、自由学園幼児生活団幼稚園の4才組と5才組の教育が基になっています。

お話、生活講習とその励み表、植物を育てること、美術、歌、体操などの教材と、子ども自身が意味や方法をよくわかってできるようにお子さん宛とご家庭宛のお手紙をお送りします。生活講習は子どもたちが心も体も健康に成長し、しっかりと独り立ちができるようにと考えられています。

自分のことは自分でできるように、手を洗う、うがい、衣服の脱ぎ着、お手洗いへ一人で行くなどの生活講習を、励み表をつけながら一つ一つ積み重ねて、一年の終わりには良い習慣が身につけてゆきます。

また、参加された皆様から寄せられるおたよりから多くの家庭の経験や工夫を知り、互いに広く学び合うことができます。

幼児の心身の発育に応じ、順を追って、2週間に1回(年24回)お送りいたします。

通信グループは70余年続いています。お送りするお話や生活講習の励み表は、単に習慣づけるというのではなく、すべての子どもに与えられている生命のちからに呼びかけることによって、子ども自身がその意味も方法もよく理解し、自分の力でじっくり身につけていけるように考えています。

・夏には、通信グループの子ども(希望者)が自由学園幼児生活団に集まる日もあります。

淑徳大学総合福祉学部教授

小児科医 松田 博雄
(自由学園幼児生活団幼稚園健康診断担当医師)

各地で「子育て支援」の取り組みが、様々な形で行われています。子育ての情報はあふれていますが、子育ては毎日の生活の中にあり、実践です。子育ては両親だけ、家庭だけではできません。地域の中で、みんなで育てるものです。

自由学園幼児生活団と通信グループは「自らよい生活習慣を身につけ、心身共に健康に成長する」ことを目的に、日本国内だけでなく、世界各地に住んでおられる家庭をネットワークしたグローバルな地域を作っています。この「地域」の仲間になり、ご一緒に育児を楽しみませんか。

- ・通信グループは、幼稚園や保育園に通いながらでも参加できます。
- ・申込書をご希望の方は自由学園幼児生活団通信グループまでお問い合わせ下さい。
- ・インターネットでのお申込みも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。



心と生活習慣のひとり立ちを
全国各地のお友だちと共にはげむ

自由学園幼児生活団 通信グループ



〒203-0021
東京都東久留米市学園町1-11-17
TEL.042(422)1098 FAX.042(423)9844
<http://www.jiyu.ac.jp/>
tg-info@jiyu.ac.jp

自由学園幼児生活団幼稚園について

自由学園は1921年(大正10年)に羽仁吉一、もと子両先生によって創立されました。女子部に続き、初等部、男子部が開設され、その後1938年(昭和13年)に

その生活からよき頭脳をつくる
その生活からよき人情をつくる
その生活からよき手腕をつくる
その生活からよき健康をつくる
その生活からよき国民をつくる

をモットーに幼児生活展覧会が開催され、その翌年の1939年(昭和14年)に幼児生活団(週に1日集まる体制)が創設されました。2006年に幼稚園の認可を受けて、2007年度(平成19年度)より週5日制の新しい体制となりました。創設以来行なってきた教育の特色を活かして、家庭と協力しながら、教育を行なっております。

幼児生活団は子どもたちが健康の上にも、精神の上にも独り立ちができるようにと楽しく励み合うところです。

自分のことは自分でできるように生活の基礎を身につけたり、音楽や美術、体操をすること、また植物を育てたり、鳥の世話をすることなど、すべては生活の中にも含まれるものと考えて、日々の生活の中で、友だちと共に子どもたちひとりひとりが育っていくようにと考えています。



みなさんからのおたより

ご家庭から寄せられたお便りをご紹介します

● 心温まるお便りや内容の丁寧さから、「いかに基本が大切か」ということを改めて感じ、親としての姿勢を正される思いがします。少しずつですが子ども自身も成長しているように感じています。手作りの鯉のぼりなどは、芸術性溢れる上品な作品に出来上がり、何より日本の行事に参加できたことは貴重な経験になり嬉しそうでした。生活面での自立も絵本のおかげで子どもなりに理解を深め、楽しく励んでいます。この通信を通して、どんなこともいきいきと楽しんで歩んでくれたらいいなと思うのです。

フランス Y.F 母



● 種まきは、説明の絵を見ながら「こうするんだね」と言いながら一生懸命母と一緒にしました。それから毎日毎日「はつかだいこんにお水あげなくちゃ」と言って水やりは朝の日課となりました。とれた二十日大根は、父に「パパこればくがつつんだよおいしいよ。はやくたべてたべて」とずっとそばで催促していました。



兵庫県 T.I 母

● 「たべものとからだ」の本は、娘が今までに読んだことのなかった科学的な内容で、とても興味をひかれたようでした。私と一緒に読んだ後もしばらく一人で本に見入っていました。

トイレをギリギリまで我慢する癖が今まではあったのですが「おしっこを我慢するのは体によくない」とわかったようで、最後の最後にばたばたとトイレに駆け込むことが減りました。

福岡県 F.N 母



● 大きな封筒を見つけると「あっ!生活団からお手紙だ!ヤッター!ママ早くあけて」といいます。励み表のおかげで上の子どもも生活習慣が身についたので、妹にもと始めました。

姉と一緒に小さい頃から励んでいたため、二番目の子どもは出来るからと見過ごしてしまうことがありそうで、母としても気をつけて見守っていきたいです。

三番目の子どもに手がかかり、次女との時間をとれませんので、通信グループのおたよりや工作で時間をとっています。

新潟県 H.T 母



● 頂いたCDは、音に合わせて思いっきり体操し、体を動かす楽しさも感じている様子です。

楽譜を見ながらカスタネットや、ハーモニカ等を持ってきて歌ったりしています。

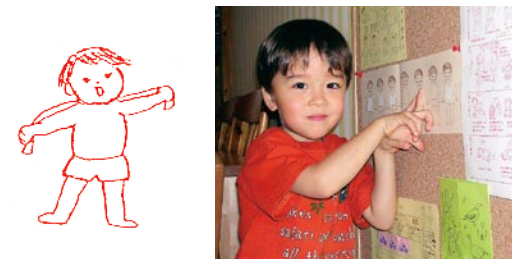
子どもの生活と成長に深く近づき見守ることが出来、私自身も楽しく取り組ませていただいています。

千葉県 S.Y 母



● れいすいまさつはすっかり習慣となり、本人の強い意志と頑張りに関心すると共に、その心が育つ過程を感じることが出来、喜びを感じています。朝のおしたく、夜のおしたくで良い習慣が身につき、家族にも影響を与えてくれました。沢山のことを教わる喜びだけでなく、こんなことも、あんなことも自分で出来るのだと言う自信が持てたことがなによりだと、自信と輝きにあふれる子どもを見て思います。

愛知県 Y.A 母



● 日々の成長に驚かされることの多い幼児期を過ごすうえで、親子共に指針になるものがほしいと思い、通信グループに参加しました。

手洗いから始まり、ぶくぶくうがいや、てめぐいしぼり、れいすいまさつなど、通信グループからの課題は子どもの日常生活と密接に結びついています。毎回、それぞれのやり方と順序を説明した絵が届くので息子は一連の動作をひとつひとつ確認しながら、子どもなりに正確に真剣に練習しています。最初は難しかったことも、続けるうちに一人で出来るようになり、正しいやり方を知っていると、いないとでは全然違うのだと実感しました。

親がただ「こうしなさい」と指示するだけでは、すんなり言うとおりにしなかったようなことも、励み表のおかげで、自分から積極的に取り組むようになりました。息子が「お母さん、見て!ほらできたよー」と誇らしげな表情をする回数も以前より増えてきました。忙しい毎日ですが、幼な子でいる時期は今しかないのだということ肝に留めつつ、これからも1日1日を大切に過ごしていきたいと思っています。

千葉県 K.I 母

